

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 言いまちがえたら、言い直せばいい（第6時）

板書：He ⇄ She 言い直しは Sorry! のあとにもう一度 [黒板の右はしに「言い直し」の場所をあける]

T My hero is my mother. He is good at tennis.

先生のヒーローはお母さん。かれはテニスが得意です。（ここでわざとまちがえる。気づかれなければ、そのまま3文目に進もうとする）

S She! She!

（気づいた子が声をあげる。だれも気づかなければ「あれ、いまのでよかったかな？」と先生からたずねる）

T Oh, sorry! She is good at tennis. Thank you!

あ、ごめん！かのじょはテニスが得意です。教えてくれてありがとう！（言い直して、そのまま先へ進む）

T Your turn. Say it wrong, and say it again!

みんなの番。わざとまちがえて、言い直してみよう（ペアで1回ずつ）

S My hero is my father. She... Sorry! He is funny.

（Sorry! のあとに正しい文が1回言えたら大成功）

つまった子への助け舟：わざとまちがえるのがむずかしい子は、先生の3文をそのまま読んで2文目だけ入れかえる形でよい。Sorry! のあとにもう一度言えれば、この5分のねらいは達成。

話題2 聞いたよさを、もう一度言って返す（第7時）

板書：Nice! のもう一步 → He is good at soccer! She is kind! [聞く人のことば]

T My hero is our school nurse. She is good at listening.

先生のヒーローは保健室の先生。話を聞くのが得意です。

T Now, say it back to me. She is...?

いまのを先生に返してみて。「かのじょは…?」

S She is good at listening!

（そのまま返すだけでよい。それが「聞いていたよ」のしるしになる）

T Yes! Now, in pairs. Listen and say it back.

そう！ではペアで。1人が紹介→相手がよさを1つ返す（交代して2回）

S My hero is my brother. — He is good at soccer! Nice!

（返すことばは1つでよい。返してもらえるとうれしい——それが今日の発見）

つまった子への助け舟：返せない子には「いまの人、なにが得意だった？」と日本語で聞き、出てきたことばを型に入れて一緒に言う。相手のカードを指さすだけでもよい。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

紹介大会①の1回目のあとに全体で：「言いまちがえた人？」と聞いて、まず手をあげてもらおう（先生もあげる）。→黒板の右はしに Sorry! の1語だけを書き足し、全員で2回言う。ふやすのはこの1語だけ。書き足した Sorry! は第8時のテストの日まで消さない——テストで He と She を言いまちがえた子が、目でここを探して自分で立て直せるようにするため。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くのが中心。ただし話題1でまちがえたまま次へ進もうとする間だけは、たっぷり取る（気づいた子が声を出すまでの数秒がこの5分の山）
- ・話題1の仕掛けは「先生がまちがえる」こと。うまく言える見本ばかり見ていると、テストで一度つまずいた子はそこで止まる。言い直して先へ進む姿を見せるのがねらい（テストの「言い直せたら◎」と同じところを見ている）
- ・話題2は聞く人の練習。返してもらえた経験が、第7時の図鑑づくりで手が動く子を増やす——聞いたことばを1つ書きとめるのが、そのまま図鑑の1行になる

